

# 『東京週報』 全4巻



◆監修・解説◆ 大原 祐治 (実践女子大学)



『東京週報』第36号(1933年10月15日)、坂口安吾『盗まれた一萬円』が掲載。

電子書籍 同時刊行予定!! 価格等は、KinoDen/Maruzen eBook Library/EBSCO eBooks ほか各サービスにお問い合わせ下さい。

長らく、坂口安吾やその関係者の書簡、文章などにその名前のみが確認されていた幻の週刊新聞『東京週報』。発掘された一九三三年分(創刊号〜第49号\*第42号は欠号)の紙面を、復刻版にて刊行。

# 『東京週報』

全4巻

【監修・解説】大原祐治 実践女子大学 ●揃定価：本体140,000円+税 ISBN978-4-8433-6697-4 C3300 A3判上製・クロス装

第1回配本・全2巻 揃定価：本体70,000円+税 ISBN978-4-8433-6698-1 C3300 2024年5月刊行予定

●1●東京週報 第1号〜第12号 定価：本体35,000円+税 ISBN978-4-8433-6699-8

●2●東京週報 第13号〜第24号 定価：本体35,000円+税 ISBN978-4-8433-6700-1

第2回配本・全2巻 揃定価：本体70,000円+税 ISBN978-4-8433-6701-8 C3300 2024年11月刊行予定

●3●東京週報 第25号〜第36号 定価：本体35,000円+税 ISBN978-4-8433-6702-5

●4●東京週報 第37号〜第41号/第43号〜第49号/解説 定価：本体35,000円+税 ISBN978-4-8433-6703-2

関連企画のご案内 パンフレット謹呈します。

## 戦前期『週刊朝日』総目次

書誌書目シリーズ78 オンデマンド版 全3巻  
【監修】黒古一夫【編集】山川恭子 創刊号から昭和20年8月まで、様々な分野で常に時代性を反映してきた『週刊朝日』の目次を集成。便利な索引付き。 ●揃定価：本体112,500円+税

## 戦前期『サンデー毎日』総目次

書誌書目シリーズ82 オンデマンド版 全3巻  
【監修】黒古一夫/山川恭子 創刊号(大正11年4月)から昭和20年8月まで、様々な分野で常に時代性を反映してきた『サンデー毎日』の目次を集成。索引付き。 ●揃定価：本体112,500円+税

## 『少年倶楽部・少年クラブ』総目次

書誌書目シリーズ84 オンデマンド版 全3巻  
【監修・解説】黒古一夫 大正3年〜昭和37年、大日本雄弁会講談社、講談社発行の月刊少年雑誌『少年倶楽部』『少年クラブ』の目次を集成。執筆者索引・解説付き。 ●揃定価：本体112,500円+税

## 『少女倶楽部・少女クラブ』総目次

書誌書目シリーズ92 オンデマンド版 全2巻  
【監修・解説】黒古一夫 大正12年〜昭和37年、大日本雄弁会講談社、講談社発行の月刊誌『少女倶楽部』『少女クラブ』の目次を集成。執筆者索引と解説を付す。 ●揃定価：本体75,000円+税

## 『婦人公論』

戦前期四大婦人雑誌 目次集成 ①  
書誌書目シリーズ59 オンデマンド版 全10巻  
【監修】与那覇恵子/平野晶子 創刊号から昭和25年までの主要婦人雑誌の目次を集成。第1弾は『婦人公論』を取録。女性学・社会学等々幅広い分野での基礎資料。 ●揃定価：本体150,000円+税

## 『主婦之友』

戦前期四大婦人雑誌 目次集成 ②  
書誌書目シリーズ65 オンデマンド版 全7巻  
【監修】与那覇恵子/平野晶子 シリーズ第2弾。女性学・社会学・文学・セクシャリティ・風俗・文化史・経済・家政学・食品等々幅広い分野での基礎資料。 ●揃定価：本体105,000円+税

## 『婦人画報』

戦前期四大婦人雑誌 目次集成 ③  
書誌書目シリーズ68 オンデマンド版 全10巻  
【監修】与那覇恵子/平野晶子 シリーズ第3弾。女性学・社会学・文学・セクシャリティ・風俗・文化史・経済・家政学・食品等々幅広い分野での基礎資料。 ●揃定価：本体150,000円+税

## 文学時代

日本モダニズム叢書 第II期  
【監修】関井光男 全39冊+別冊1  
昭和4年に創刊。新興芸術派を中心に、プロレタリア文学派、探偵小説やナンセンス小説、諷刺マンガなどで、消費文化への視線をきわめてジャーナリストックに展開。 ●揃定価：本体243,010円+税

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493  
http://www.yumani.co.jp/ e-mail eigy@yumani.co.jp

### ★特にお薦めしたい方

近代日本文学、メディア史、社会史、文化史、風俗史などの研究者・研究機関。大学図書館。海外の日本学関連研究施設など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	『東京週報』 全4巻 揃定価：本体140,000円+税 ISBN978-4-8433-6697-4 C3300		取扱店
	お名前	セト	
ご住所	TEL ( )		



坂口安吾の全集未収録作品『盗まれた一萬円』冒頭部分(第36号、1933年10月15日)

### 本書の特色

●『東京週報』は1933(昭和8)年2月5日に創刊されたタブロイド判の週刊新聞。長らく、坂口安吾やその関係者の書簡、文章などにその名前のみが確認されていた幻の週刊新聞であった。今回、発掘された1933年分(創刊号〜第49号(第42号は欠号))の紙面を、復刻版にて刊行する。

●国内国外の政治・経済、大学野球を中心としたスポーツ、ファッションなどの流行、競馬、映画界動向などの芸能、充実した文芸欄・書評など、多岐にわたる内容を掲載した総合的な新聞である。豊富な写真・カット・イラストによって魅力的な紙面が構成されている。

●文芸欄を担当していたのは、安吾の親しい友人だったフランス文学者の大久保洋。その大久保の回想「希望の明星 わが三田の青春3『東京週報』奮闘記」(『知識』1988年3月)によれば、『東京週報』は、元『国民新聞』社長で新聞界の重鎮だった伊達源一郎が立ち上げたと言われる。大久保は文芸関係記事の差配を任せられ、大久保は安吾の人脈を頼った。

●特に掲載された文学者のエッセイ、創作は、そのほとんどが個々の作品集には未収録で新発見のものである(執筆者坂口安吾/牧野信一/矢田津世子/井伏鱒二/堀口大學/海野十三/直木三十五/吉川英治 など)。

# 報週京東



創刊号（1933年2月5日）の紙面より

## 『東京週報』刊行にあたって 大原祐治

1933年2月に創刊された『東京週報』は、政治経済からスポーツや文化に至るまで、一週間の世相が詰め込まれたタブロイド判の週刊新聞である。同時期にはすでに、『週刊朝日』や『サンデー毎日』といった新聞社刊行の週刊雑誌が存在していたが、あくまで週刊の「新聞」として刊行されていたところに、本紙の特徴がある。すなわち本紙は、読みものとしての雑誌ではなく、あくまでニュース報道としての新聞であることを自負していたのであり、そのことは創刊号の巻頭に置かれた「発刊のこゝろ」からも読み取れる。

わずかに一年余で刊行が途切れてしまったこともあって、本紙の全容は長らく不明のままであった。国立国会図書館をはじめ、本紙を所蔵する機関は絶無であり、かつてこのような週刊新聞が存在していたこと自体、ほぼ忘却されていたと言わざるを得ない。ただし、その痕跡はわずかに、当時の新進作家だった坂口安吾の記した書簡の中に残されていた。本紙の編集に携わった大久保洋（フランス文学翻訳者）と安吾が語学学校アテネ・フランセの同級生だった縁から、紙面には安吾をはじめとする何人もの文学者が登場している。従って、昭和初期における文学をはじめとする文化状況に関心を持つ者にとって、本紙はさまざまな発見の宝庫である。

もちろん、本紙の資料的価値は文学の世界にとどまるものではない。先述の『週刊朝日』『サンデー毎日』以外にも、この当時のジャーナリズムにおいては「十銭ジャーナル」と称される週刊メディアが簇生していた。こうしたメディアの諸相について考える端緒としても、本紙の存在とその内容は意味を持つだろう。本紙を立ち上げたのは、『国民新聞』や『読売新聞』で要職を務めた新聞人の伊達源一郎である。「週刊」の「新聞」という体裁にこだわりながら、一九三三年の伊達は何を発信しようとしていたのか。その試みはどのように受け止められ、そしてどのように途切れてしまったのか。新聞研究という観点からも、本紙の存在意義はさまざまな考察の対象となるだろう。



第3号 井伏鱒二「三十男Q・Dの告白」



第5号 横溝正史「探偵コント 鍵」



第15号 写真真



第18号「片手落ちな結婚政策二つ」矢田津世子



第20号「娘尖端考情史」杉田三太郎



第20号「監督を語る 青年成瀬巳喜男を描く」澤村実

【目次から】  
第1号  
〈表紙〉「非常時の女学生 小石川高女の軍事教練—いま軽機関銃の射撃中—」／「発刊のこゝろ」／「国際連盟と米国の策動 小国側の日本攻撃の真相」／「週刊ニュース 政治日誌、経済日誌、世界日誌、社会日誌」／「政変来！の警鐘 次の政権は何処へ」／「第六次 日本共産党に三つの特異性」／「優話前週」／「徳川夢声」／「説切小説 麻餅太平記 土師清二」／「松方幸次郎論 盲滅法放胆なうちに涙もろい半面を持つ」／「反射塔」直木三十五／「スポーツ 全フアンの恋人 リーグ戦よ何処へ行くか」太田四州／「コント 喧嘩」久野豊彦／「デマの中に泳ぐ引張瓶のスター」連 日活・松竹の大喧嘩—ほか

第3号  
〈表紙〉「連盟を操縦して小国を躍らせつゝあるドラモンド氏」／「米國海軍は何を感ふ 太平洋に全勢力集中」／「親日から排日的へ 英國態度の急変」／「焦慮する蔣介石 虚を狙ふ両広連盟」／「南洋群島の現状」／「見果てぬ夢の自動車大工業 米國二大工場閉鎖」／「社会展望」直木三十五／「世界の動き」／「優話前週」徳川夢声／「一輪隨筆」平山蘆江／「反射塔」直木三十五／「連続小説 春宵おぼろの男」吉川英治／「落着いた阪妻映画況」／「コント 三十男Q・Dの告白」井伏鱒二—ほか

第15号  
「日没せんとするの悩み 沈み行く大英國」／「弱きもの・汝の名は……」水之江瀧子／「資本主義王座の財閥を解剖す 全金融界に君臨する安田王国」岡田邦太郎／「日本の進展」／「世界の動向」／「向上著しき五大洋野球 春のリーグ戦を終る」進藤鎮雄／「二つの傾向運動化した剛健なる新遊昇法 ハイキングとワンダーフォーゲル」小島六郎／「弱性格のカタストロフ 死を遊戯する（ナンセンス作家）中村進治郎」ケロ／「囁託殺人」の公判を聴く／「科学隨筆 思ひ出のビール」南沢十七／「娘尖端考情史」杉田三太郎／「監督を語る 青年成瀬巳喜男を描く」澤村実—ほか

第20号  
〈表紙〉「空の勇者とその愛機」／「以夷制夷」政策の強化 蔣宋合作とその動向」／「四國協定の成立による欧州政局の一進展 仏伊の接近と其他の事情」／「海外トピック（刑務所志願のホールド・アップ）鉄道局はモダン・スカートの礼賛」／「世界の女 マダム・エ・マドモアゼル」／「羽生操」／「日本の進展」／「世界の動向」／「謎の蒙古を探る アール・シー・アンドリュウ」／「権民セクション 拓務省の立案にかかる満洲産業開発の統政策」／「アメリカ映画を語る」水戸八十—ほか

第25号  
〈表紙〉「近く凱旋する松岡代表」／「澎湃たる白濁の波に 喘ぐアジア民族の姿」／「経済封鎖の第一歩 日印通商の廃棄」／「北支の形勢急転」／「世界の動き」／「整然たる統制下に躍進する満洲国」／「不安の政局 対し軍部は何を望むか 現内閣支持の傾向」／「週刊トピック」／「会社を探ねて 帝國製麻」／「米国のインフレ病」／「松岡代表の足跡」／「初夏の流行 御婦人達の好みは？」／「変態シーズンの妙味？ 乱戦強豪転落の兆」太田四州／「レヴエウ全盛時代 松竹少女歌劇、エノケン 新宿ムラン・ルージュ 帝都の舞台を三分」—ほか

第36号  
「日支関係の好転打開は全面的更生外交の第一義」／「農民はかく飢ゆ 没落の農村を救へ」／「全米を風靡した青鷲革命の横顔」／「日本の進展」／「世界の動向」／「秋の東京大学連盟リーグ戦 戦評と予想 早法三想」／「探偵小説 盗まれた一萬円」坂口安吾 作（安住一著・画）／「今週のアトラクション（映画）演劇」レヴエウ／音楽／コード／舞踊／スポーツ／競馬／デパート」／「秋の温泉めぐり 伊豆の巻（吉奈温泉／船原温泉）」—ほか



第12号「変態シーズンの妙味？ 乱戦強豪転落の兆」太田四州



第25号 写真真



第29号 表紙「五・一五事件特報号」



第39号 表紙



第49号 表紙